

【実践者】

授業者氏名	沓木 里栄	学校名	府中町立府中中学校
教科（科目）・領域	外国語（英語）	対象学年（人数）	1年（219名）
実践年月日もしくは期間（時数）	令和2年12月～令和3年1月（13時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：『Sunshine 1』Program 5 国際フードフェスティバル（開隆堂）						
2. 実践する教科・領域： 外国語（英語）		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 日本食の特徴やSDGsとのつながりをわかりやすく英語で説明する「日本食SDGsポスター」を作成することを通して、海外とのつながりに気づき、食べ物を通して地球市民の一員だということを意識しこれからの行動について考えることができる。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	「This/That is～」 「場所を表す前置詞」「代名詞」を正確に使って日本食とSDGsとのつながりを紹介する「日本食SDGsポスター」を作成することができる。				
	②思考力、判断力、表現力等	日本食の特徴を他の国の料理と関連付けて、わかりやすくALTに説明する英文を書くことができる。				
	③学びに向かう力	各国に日本食に似た料理が存在することを知ると同時に、日本で当たり前食べている食材の原産国とその状況を知ることにより、自分たちの食生活が世界と切っても切れないことに気づき、食に対する自分たちのとるべき行動を考えることができる。				
6. 単元設定 の理由・単元 の意義 （児童/生徒 観、教材観、 指導観）		【単元設定の理由あるいは単元の意義】 外国人と接する機会も増える中、日本食について英語で説明しなければならない場面も増えている。生徒たちはこの単元で「This/That is～」 「場所を表す前置詞」「代名詞（主格）」を学習する。それらの言語材料を使って簡単に日本食を外国人に説明できることを知らせたい。また、各国に日本食に似た料理が存在することを知り、それと関連付けて説明することでわかりやすくなることを実感させたい。さらに、食材の原産地を知ること、自分たちの食生活が世界と切っても切れないことを実感させ、SDGsの課題につながっていることを意識させたい。そのうえで、生徒たちが自分自身のとるべき行動を考えさせたい。 国際理解やSDGsに関連した取り組みを行う際、どのようにカリキュラムの中に組み込んでいくかが課題であった。昨年度までは、学年の教員間では足並みをそろえながらも単発的に教科のある一部で取り扱うのが精いっぱいであった。今年度はSDGsを全校共通の指導のツールとして位置づけた。そして年度当初に、各学年ごとすべての教科の指導内容を俯瞰できるカリキュラムマップをSDGsのゴールに関連付けて作成した。英語科としては、教科書の単元の内容を最大限に生かしながら、すべての単元においてSDGsと関連付けた指導を行っていくこととした。 【生徒観】 生徒は、6月に総合的な学習の時間でSDGsの背景や概要を学び、17のゴールの内容について				

てはある程度理解している。その第一歩として、SDG s を達成するために自分ができることを考え、今から始める小さな一歩として「わたしのSDG s 宣言」を行った。その中で、多かったのが「給食を残さない」「(食べ物)好き嫌いをしない」などの食に関わるものだった。

宣言はしたもの、どのように行動に結び付けたいか、またその課題が具体的にどのような背景にあるのか深く知らない生徒が多い。

一方で、自主勉強ノートに街で見つけたSDG s について調べてきたり、関連ある内容をまとめてきたりする生徒もいる。また総合的な学習の時間に取り組んでいる防災や平和に関わる実行委員を募ると、どの分野でもクラスで4～5人は手を挙げ、行動したい、やってみたいと考えている生徒は多い。

【教材観】

この単元では、主人公のユキやタケシが国際フードフェスティバルに行き、インドのブースではビリヤニ、韓国のブースの前ではキンパについて「This/That is～」や「場所を表す前置詞」を使いながらその料理についての会話をしている。見た目がそれぞれ、焼き飯、巻きずしに似ていることから、国が違っても同じような食文化があることを学ぶことができる単元となっている。また、その際の表現として「like (～のような)」や「～style (～式)」が使われており、日本食と他の国の料理とを関連付けて説明するのに最適な単元となっている。

また、2年生になるとWFPのcharity walkについて学ぶ単元もあり、その単元へのつながりも意識したい。

【指導観】

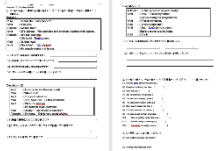
全てを教師が与えるのではなく、単元の最初に単元を貫く教材のテーマを提示し、生徒自身で課題を考え決定し、そのまとめを英語で「日本食SDG s ポスター」に仕上げることをゴールとしたい。そのためにまず、海外の食文化と日本の食文化で似たものがあることを知ることを通して、食文化に興味を持たせたい。その後ALTの出身国であるフィリピンと日本のつながりや食事情についてクイズ形式のやり取りを通して学んだうえで、日ごろ当たり前前に食べている食材の原産国やその食材に関わるSDGsの課題について、カードゲームを通して気づかせたい。他国とのつながりの中で我々の食生活が成り立っていることを認識したうえで、食のありがたさを実感すると同時に、日々の食生活がSDG s の課題とつながっていることを意識して、それに対する行動目標や提案を含めた日本食ポスターとしてまとめさせたい。

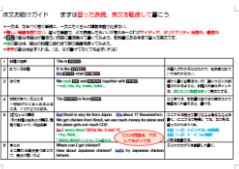
言語材料については、小学校の時に音声では導入済みである。そのため、音声での復習を行ったうえで文構造の確認と書くことに重点を置く。それらの言語材料を使って教科書にある表現をアレンジしながら、ポスターに使う英文を作成し、生徒自身が考えたことを相手にわかりやすく論理的にまとめて書くことをゴールとしたい。

また本校では、単元ごとにラウンドシステムでの学習を取り入れている。本単元では、第1時をlistening roundとする。写真での導入と同時に日本食と似た料理があることをlisteningを通して知ることにより、単元を貫く目標である「日本食SDG s ポスター」作成への興味付けをしたい。その後、reading roundで内容を読み込んだ後、「日本食SDG s ポスター」の内容について個人個人で内容を決定させたい。

7. 単元計画 (全 13 時間)

時	ねらい	学習活動	資料など
1	単元の内容の概要を知り、ゴールへの見通しを持つ	- 世界の料理クイズから日本食に似た料理があることを知る -Where is this food from? - 	写真 

		本文を聞き取り，概要を把握する。 (Listening round 1) 	
2	フィリピンの食事や食糧事情，SDG s に関わる課題についての話を聞き，日本食との共通点，食材の調達状況，について知る。	- ALT の出身国であるフィリピンに関わるクイズに取り組む。  - 聞き取った話から，SDG s のつながりについて考えたことをワークシートに書く。 - ワークシートに新しく知ったこと，考えたことを書く。 	ALT 写真
3 本時	日本食と SDG s のつながりについて考える	- どんな日本食があるか言い合う。 - 日本食と SDG s の 17 のゴールとのかかわりについてカードゲームを通して考える。 - 紹介したい日本食を考える。	『Mundi』2020 年 1 月号 P8~25 『Mundi』2016 年 1 月号 P4~15 『Mundi』2020 年 1 月号 P6~7 『どうなってるの？世界と日本』
4	世界と日本のつながりを考える 『コロナウィルスからの手紙』を読んで考える	- 教師の英語の範読を聞きながら，誰からの手紙か考える。 - SDG s に関わる記述を抜き出す。 - 疑問に思う箇所を抜き出す。 - コロナウィルスだとわかった後，もう一度読み直し，考えたことを書く。 - 自分にできることを考えて書く。	『コロナウィルスからの手紙』
5	本文の内容を詳しく聞き取り，ポスターに使える表現を考える	単元の内容を聞き取る (Listening Round 2)	
6~7	本文の内容を読み込み，ポスターにしたい表現を考える	単元の内容を読み込む (Reading Round)	
8	This/That の用法について理解する	- This/That の概念について理解し，This/That を使って仲間とやり取りし，使えるようになる。 - This/That を使って，3文で日本食について説明する。	
9	Where 及び場所を表す前置詞の用法について理解する。	- Where と前置詞について理解し，Where と前置詞を使って仲間とやり取りし，使えるようになる。 - 前時の This/That に加えて，前置詞を使って食材の原産地を付け加えて，日本食について説明する。	

10	内容が伝わるように音読できるようになる	単元の内容の音読練習をする (Speaking Round)	
11～12	日本食 SDG s ポスターを作成する	・ 7 時と 8 時で作った英文を生かして、ポスターの下書きをする。 ・ 日本食ポスターを仕上げる。	
13	相互評価を行い、これからの SDG s に関わる自分自身の行動指針をまとめる	・ 生徒同士でポスターを相互評価する。	

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：日本食が SDG s の課題とつながっていることを積極的に学び、ポスターとして紹介する日本食の SDG s 的課題を考えることができる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
-------	-------------------	-----------------	--------

導入 (10 分)	Greeting Warm up ① Sing a song ② 前時の振り返り What did you study last time? -Food in Philipine. -ALT から聞いた内容の単語を言う。		
展開 (33 分)	めあての確認 日本食と SDG s のつながりを発見しよう -Let's try card game. 1) Please work in the group with 3 or 4 students. 2) I will pass the set of the cards; They have five color cards in it. Yellow is food card, green is ingredient(材料), red is data card, blue is country card, and SDGs goal card. 3) Please think and collect 5 different color cards with one food. -Work in the group(15') -Check in the class(15') -Let's share the impression and new ideas through the game.(3') -Let's write the idea sheet about your Japanese food SDGs poster.	前時に使った写真を見せ、ヒントにする。     どちらにも当てはまると迷っていたら -Please think the best answer. 生徒の意見を拾いながら、背景についても説明する。	  ワークシート
まとめ (5 分) 振り返り (2 分)	埋められないところは、日本語で調べてくる。 -Please write what you study and think today's lesson on the reflection card. ・好きな日本食についてほかの国とのつながりを調べてみようと思った。 ・ほかの国とのつながりが無いといつも食べている食事が食べられないことがわかった。 ・日本食とほかの国とのつながりをポスターで知らせたい。	数名に発表させる	
9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法) ワークシートの記述により評価 ・日本食が SDG s の課題とつながっていることを積極的に学び、ポスターとして紹介する日本食の SDG s 的課題を発見している—A ・本時の活動から食における日本と他の国とのつながりについて新たな発見をしている—B ・本時の活動に参加している—C			

10. 学習方法および外部との連携

学習方法

- ・本校に派遣されている ALT がフィリピン出身のため、今まで直接学ぶことができなかったフィリピンについて詳しく学ばせたいと考えた。同時にフィリピンと日本のつながり、さらには食料における関係性を紹介することで、本単元への関心を高められると考えた。
- ・題材として専門用語も多く中学 1 年生には難しいとも思ったが、ALT の英語なら聞こうとする生徒が多いため、写真を多く使うことで考えるヒントを多く与え挑戦させることとした。また、ALT からの一方的な語りではなく、生徒に知ってほしい事柄について 3 択のクイズとし、英語を聞く必然性を生み出せるようにした。
- ・学習の質を高めるため、生徒自身の希望をもとにしたペアを決めており、まずそのペアで考えお互いに学びあう環境ができています。考えを深める場面では、そのペア 2 つを合体させ 4 人班とし、より多くのアイデアを交流できるようにする。これにより、一人で学ぶのでは発表できない生徒が数多く発表できるようになったり、多くの意見を交換することから新しいアイデアを生み出すことができる。そのペアやグループを本単元でも最大限に活用していきたい。
- ・食べ物と SDG s のつながりについて、ゴール 2 やゴール 13 については思いつくのだが、その原因まで考えが及んでいない生徒がほとんどである。写真などをこちらで用意してそれを料理と結び付けることで新しい視点を持たせたい。

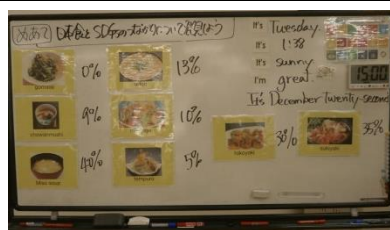
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・校内研修の 1 つとして位置づけ、授業を公開する。授業の後には、意見交流の場を設ける。
- ・他教科との関連を意識し、連携を図る。
- ・生徒が調べてきた日本食に似ている海外の料理を給食の献立に採用してもらい、その料理の内容や SDG s のつながりについて校内放送で紹介する。
- ・生徒の作品を給食時の校内放送や校内掲示などで紹介すると同時に、学校便りやホームページにも掲載し、日本食と世界とのつながりそして SDG s について考えるきっかけを広く知らせる。
- ・一般社団法人 Think the Earth から図書の寄贈を受け、職員室内に SDG s 関連本のコーナーを作ったり、教職員の SDG s に関わるライングループを作成したりし、SDG s に関わる情報交換を積極的に行える環境を作る。



【自己評価】

12. 苦勞した点	英語の授業の中で、社会的要素の強い内容をどのように扱うかで悩んだ。結局、本指導案の単元計画の中で最も英語使用率の低い時間を「本時」とした。これは、生徒自身にとって学びを通しての新しい発見が最も多い時間だと考えたからである。そのため、授業はいつもの通り極力英語で進め、カードにも英語で説明書きを加えた。わからない単語は辞書を引くという指導をしていたので、辞書を引ながらディスカッションするという姿を想定した。
13. 改善点	カードに「食料自給率」の数字があればよかったと思っている。授業では、板書で料理の絵カードのそばに書き込んでいったが、カードの中にあるヒントにもなり、我々の食生活が海外に依存しているということをより実感を持って考えられたのではないと思う。これ以上カードが増えるのは、作業スペース上生徒の作業量から考えると不可能である。そのため例えば、材料のカードの中に数字を入れるなどの方法が考えられる。



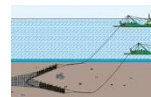
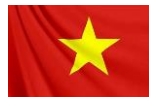
14. 成果が出た点	今まで生徒たちは、SDG s について概要は知っており、ジブンゴトとして捉えようと努力はしていた。しかし、そのジブンゴトの行動範囲が、自分の身の回りだけにとどまっていたように考える。自分たちの実際の生活が SDG s の課題に関わっているのか、さらにはそれが世界の国々とうかがわっているのかということが実感できていなかった。しかし、自分たちが生きていくうえで必要な「食」という行為が、ほかの国に影響を及ぼしており、SDG s の課題は地球規模であるということをこの授業を通して体感できたことは、大きな成果である。 また、前述の 12. の項でも述べた英語の時間にどこまで内容に踏み込むべきなのかという私自身の迷いについて、教科書の題材をうまく工夫することで、生徒は学ぶ意義を見出し積極的に取り組んでいくのだと、実証できたことも大きな成果である。実際、あるグループではカードゲームに取り組む際に知っている単語を駆使してほぼ英語でやり取りしながら、完成させていた。「社会の新しい知識になって、英語も覚えることができました」とか「普段食べている食べ物と国と SDG s のつながりがわかった。次は写真を見てどんな問題があるか英語で考えたい」と生徒も前向きにとらえている。 ある生徒は「もっとたくさんの国のことを知りたい」と感想を述べており、このように思わせるような教材や取り組みを提示することが生徒の目を世界に向けさせ、行動を起こさせるきっかけになるのではないかと考える。
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	 単純に「いつも食べているものがこんなにも世界とつながっていることに驚いた」「かなり輸入に頼っていたのでびっくりした」「自分たちが食べているものも外国のものが多くて驚いた」と、日本の食事が海外に頼っているということを知らない生徒も多くいた。そして、「日本食を食べると外国で問題が起こることは知らなかった」「私たちが当たり前前に食べていたものはその食材を取るだけでもたくさんの問題が起こっていて驚いた」「ほかの国に影響が出ているのが意外だった」と、輸入先の国に何らかの影響を及ぼしているということを初めて知ったという生徒がほとんどだった。 そのうえでこの授業を体験することにより、「ほかの日本食でも影響が出ているのか調べてみたい」「ほかにも環境が失われて作られている食材などを知りたいなと思いました」とか「どうしたらその被害がなくなるか考えていきたい」「何か改善する方法がないか考えたい」と、他国の影響をそのままにするのではなく、自分たちが主体的に解決しなければならない課題として捉え、もっと調べたり解決方法を考えようとする姿が見られるようになった。 さらには、自分たちが食べることによってさまざまな問題が起こっているということを実感することで『いただきます』は大事だなと思った」「普段食べているものはいろいろなものを犠牲にして食べているのもっとおいしくいただく」などと、今まで以上に食を大切に考える生徒も多くいた。 また、「自分たちがうどんを食べると、先住民が困る。でも食べないわけにはいかない。どうしたらいいかわからない」「日本で食べているものが他の国に影響を与えていることを知ったけど、どうしたらいいのかなと思った」「私が食べることによってほかの国に影響が出ると思うと食べづらくなる」「私たちがいろんなものを輸入してそれを食べるのには多くの命が犠牲になったり環境破壊など SDG s に反するような状況だったので止めるにはどうすればよいか疑問に思った」「日本食の伝統を受け継ぐためには、いろいろな国を犠牲にしているんだなと思っ少しもやもやします」などと、自分たちに必要不可欠な行動とその影響を関係づけて考え、悩んでいる姿も多く見て取れた。 

	今後、「これからも調べてみたい」「ほかの国も日本のようなことが起きているのか調べてみたいです」の言葉を実行に移すべく、生徒たちは自分が興味を持った日本食について自分なりの視点で調べ、その内容を「日本食 SDG s ポスター」として英語でまとめていく。 「日本にもほかの国にも悪い影響が出ないようにするにはどうしたらいいのかみんなで考えたいと思います」この言葉が、次の学びにつながっていくと実感している。
16. 授業者による自由記述	日ごろから、開発教育に関わる内容について、総合的な学習の時間などで特別な形で扱うのではなく、教科として扱いたいと思っていた。特に SDG s については、すべての教育活動に関わる内容であり、当然のように考えさせたいと思っている。その観点からも、教科書の題材を使って SDG s の視点で考え、教科の目標を達成させる授業をこれからもおこなっていきたいと思っている。

参考資料：

『Mundi』2020 年 1 月号 P8～25 独立行政法人国際協力機構
『Mundi』2016 年 1 月号 P4～15 独立行政法人国際協力機構
『Mundi』2020 年 1 月号 P6～7 独立行政法人国際協力機構
『世界を変えた 15 のたべもの』 テレサ・ベネイテス 株式会社大月書店 2020
『どうなってるの？世界と日本』第 2 版 独立行政法人国際協力機構
『コロナウィルスからの手紙』 <https://note.com/yoshie1961/n/n2bfc75dbb9e>
<https://macrobiotic-daisuki.jp/ebisuki-149659.html>
<https://www.alic.go.jp/content/001162823.pdf>
https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_001986.html
<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/tikusan/attach/pdf/190419-20.pdf>
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/
<https://www.meiji.co.jp/meiji-shokuiku/>
<https://ja.wikipedia.org/wiki/パコラ>
https://www.maff.go.jp/chushi/jikyuu/pdf/140910_jikyuu_kids.pdf
<http://www.cjc.or.jp/school/d/d-2-1.html>
<https://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2016/oct/wrepo01.htm>
<https://www.flour.co.jp/news/article/140/>
<https://www.jacom.or.jp/archive01/document/tokusyu/toku148/toku148w04102607.htm>
<https://jp.mongabay.com/2014/11/トロール漁業%EF%BC%9A 破壊的な漁法で海底が砂漠化/>
https://www.alic.go.jp/joho-d/joho08_000152.html
<http://brasil-navi.net/recipe/recipes/%E3%82%B3%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%A3coxinha/>
<https://japotina.com/archives/tamal.html>
中華人民共和国 | 比べてみよう！世界の食と文化 | 株式会社 明治・Meiji Co., Ltd.

Where is Japanese food from?





1 What do you think about?

2 Let's think about your SDGs Japanese poster?

紹介したい料理名		
使っている材料		
材料の原産地		
原産地の現状		
SDGs とのつながり（ゴールナンバー）		
その他（似ている料理など）		

Class: _____ No. _____ Name: _____